



令和2年度 スタート！ チーム南小！

令和2年度が始まりました。昨年度末は新型コロナウイルス感染予防対策のため、全国一斉に臨時休業という異例の終わり方をしました。令和2年は例年とは形を変えはしたものの、何とか入学式、着任式、始業式を実施することができました。しかしながら、新型コロナウイルス感染防止のため、**明日4月8日(水)から19日(日)を臨時休業**とすることになりました。急な決定ではございますが、御理解と御協力をお願いします。

また、文部科学省「新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開ガイドライン」3月24日付けにある**3条件（換気の悪い密閉空間、多くの人が密集、近距離での会話や発声）**が同時に重なる場を避けることを実現するために、今後も先に挙げた入学式等だけでなく、様々な学校行事を中止、延期します。御理解と御協力をお願いいたします。（詳細は別紙参照）

令和2年度は、「**ともに夢をかなえる子**」を学校教育目標に据え教育活動を展開してまいります。（詳細は裏面グランドデザインを参照してください。）御理解と御協力をお願いいたします。

令和2年度南小学校職員	
校長	
教頭	
主幹・教務主任	
1年1組	
1年2組	
1年3組 主	
2年1組 主	
2年2組	
2年3組	
3年1組	
3年2組	
3年3組 主	
3年 担任外	
4年1組	
4年2組 主	
4年3組	
4年 担任外	
5年1組	
5年2組 主	
5年3組	
5年 担任外	
6年1組 主	
6年2組	
6年3組	
6年 担任外	
4組	
5組	
6組	
7組 主	
養護教諭	
新採指導	

事務職員（県）	
事務職員（市）	
栄養士	
用務員	
図書館司書	
市嘱託講師（4-7組）	
市嘱託講師（4-7組）	
学校支援員	
学校支援員	
学校支援員	
介助員	
特別支援支援員(2年)	
特別支援支援員(4-7組)	
ALT	
JET	
調理員	
調理員	
調理員	
調理員	
調理員	
調理員	
調理員	
主幹・初任研後補充	
学び方アドバイザー・初任研後補充	
スクールサポートスタッフ	
スクールカウンセラー	
スクールソーシャルワーカー	

このほか、育休等でお休みしている職員が3名います。「チーム南小」で頑張ります。1年間よろしく願いいたします。

2020年度
三島市立南小学校 グランドデザイン

学校経営の理念



地域社会の学校への関心
多様化する家族形態
個に応じる教育への喫緊
の必要性

少子化・高齢化
グローバル化
予測不可能な社会
地球規模の課題
AIの隆盛に向かう
社会「Society5.0」

スローガン

南っ子が、安心して登校し、
満足して下校できる南小学校

安心
いじめがない 友達と共に 相談できる
不登校児への支援がある 安全な施設

満足
授業がわかる 活躍の場がある 友達と共に
居場所がある 夢がある 来る時(未来)への準備と期待と希望

子供の様子

- ・優しく、真面目である
- ・あいさつが少ない
- ・人の気持ちを思いやる心のゆとりをもたせたい
- ・学ぶ意欲を育てたい
- 「自ら」の重視

学校教育目標 「ともに夢を かなえる子」

短期目標 「自ら 感じ考え 動く 南小の子」
研修テーマ 「伝え合い学びを深める子をめざして」
～主体的・対話的で深い学びに向けて～

- 県「文・武・芸」三道の鼎立
- 社会総がかりで取り組む
- 市 学校教育振興基本計画
- 「心の教育」を柱に、徳・知・体の調和のとれた教育を行うことで、生きる力を育む

「育成をめざす子供の姿」

自ら学習(実践)課題をつくり、自分の感じたこと・考えたことをまとめて説明し、友達と協働する行動を通して、学習(実践)課題を解決する子供

2020年度 重点目標	徳 相手の気持ちを思いやる 子供を育成する	知 主体的に自ら目標を決め 学ぶ子供を育成する	体 健康を意識し体力づくりに 励む子供を育成する	地域に開かれた学校 地域と協働して子供を育成 する学校にする
達成目標 Aはい、Bだいたい Cあまり、Dいいえ 低学年AB、高学年A	学校へ行くのが楽しい 低R1:90%→R2:95%、高59%→65% いじめのない学級 低R1:85%→R2:90%、高54%→60%	先生や友達の話をしっかり聞いて勉強している 低R1:86%→R2:90%、高56%→60% 授業が分かり目標達成 高R1:31%→R2:40%	早寝早起き朝御飯 低R1:80%→R2:85%、高58%→65% けがや病気をしないよう気を付ける 高R1:67%→R2:75%	PTA、町内、地域の活動に参加 低R1:53%→R2:60%、高46%→55%
何ができるようになるか (そのための支援)	<ul style="list-style-type: none"> ④ 集団生活を営む上での共通に守りたいことが分かる ・相手の立場を考えられる ・まずは、あいさつに応えられる ③ めざす子供の姿を共通理解する ・道徳教育を重視し、授業と生活を関連付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 学んだことを実際に生かそうとする ・授業に目標をもって臨む ③ 基礎基本の定着を図る ・ICTを効果的に活用する ・授業の振り返りに役立つ板書 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 生活にわたって運動やスポーツを豊かに実現していこうと、日常的に運動に励むことができる ・保健指導、食育指導で学んだことを積極的に自分の生活で生かす ・健康で安全な生活を送ることができる ③ 進んで運動に励む子を称揚する ・進んで体力づくり、運動する場の環境づくりを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 校外学習・地域行事への参加を通して地域について知り、改めて地域の一員となる ③ ガストティーチャーとして地域人材を活用する ・学校の出来事を積極的に発信する
何を学ぶか	<ul style="list-style-type: none"> ④ 自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、相手を認めること ・あいさつの意味 ③ 子供の個性をとらえること ・多様性を尊重する態度の模範を示すこと 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 基礎基本の習熟 ・話し合いの仕方・価値 ③ 体験を含む授業づくりに努めること ・子供が活動し追究する、子供主体の授業をめざすこと 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 各種の運動の行い方と、基本的な動きや技能 ・健康の基盤となる生活習慣の大切さ ・食に関する正しい知識と望ましい食習慣 ③ 日常的に指導、声かけを行い見守っていくこと ・養護教諭、栄養士が専門的な知識を伝えること 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 地域を教材として学ぶこと ・学んだことを発信すること ③ 授業で地域環境を教材化したり、資料としたりすること
どのように学ぶか	<ul style="list-style-type: none"> ④ 話し合い、合意形成し、役割を分担し、協力・実践する経験を通して学校生活の基礎を身に付ける ・自分を振り返る機会をもつ ③ 子供が安心して居られ、何でも言える学級集団をつくる ・リーダーシップやチームワークを育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 発問、課題にねばり強く取り組み友達意見をよく聴き、自分の考えを表現すること ・毎日の家庭学習を習慣化し、高学年になるにつれ内容を自分で決める等、自主的に学ぶ姿勢をつくる ③ 落ち着いた環境で授業に取り組めるよう個々の児童の特性を考慮する 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 目標をもち、運動に継続して取り組む ・保健・食育について自分事として学ぶ ③ 目標をもったり、振り返ったりする機会を設ける ・発達段階に応じた指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 地域行事に積極的に参加する ③ 地域行事に参加することの意義を子供に伝える ・地域の方に、地域行事で児童ができることを紹介していただく ・地域での子供の様子を知る
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な子供に組織的、共感的、受容的にかかわる ・子供の姿容をチームで見守る ・ユニバーサル・デザイン、あいさつ、学級活動を重視する 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実践に役立つ研修を行う ・クラス担任以外から学ぶ機会を増やす ・算数科少人数(IT)指導を行う学年をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びを奨励する ・目的を明確にして、命を守るための訓練や授業を実施する ・定期的な安全点検を通して安心・安全な環境づくりを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・373サポーターズと協働する ・南小型コミュニティスクールの在り方を探る ・社会体育施設として学校開放する

基盤② 授業づくり

どんな資質・能力を育てるのが分かる、習得と活用場面のある単元計画を立てる
聴き合い、伝え合ってそれぞれの考えをつなぐ、学びの実感のある授業をつくる

基盤① 学級づくり

子供理解(環境・性格・特技等) 承認 称揚 動機付け をする
困難を乗り越える場面をつくり子供の成長を促す 子供と子供をつなぐ(チームづくり)